



新 妻 健

特別授業講師

去る8月12日、福島南高の懐かしいあの大教室（文理科の旧・文科専用教室）で、遠くは大阪などからも参加いただいた多くの1期生ばかりか、2期生以下の卒業生、そして現役南高生や卒業生のお子さんの若い中学生など、50名近い方々を前に特別授業を実施できたこと、これは翌13日には68歳となった私にとって実に晴れやかな、そして照れくさくもある授業でした。そしてまた、皆さんの顔ぶれを見て「ああ、この生徒も出席してくれたんだ」と15～18歳当時の面影をたどりながら教壇に立ち、感激もしたのです。

まずは、この企画を立ち上げていただいた秋元同窓会長をはじめとする役員と南高同窓会事務局の先生方に、深く感謝申し上げます。連絡事務やHPでの広報、テキスト印刷、授業感想の取りまとめなど、長期にわたって根気よくやってもらっています。本当に有難うございます。（なお、あの授業後に開かれた、現役生徒も参加したPTA会報用座談会の楽しかったことも付け加えておきます。誠実な生徒たちだったなあ！）

皆さんの感想文はこれからの楽しみとして、私自身には、上記の晴れがましさと共に、反省と後悔が残っています。「もっとみ

んなと対話、少なくとも質疑応答のある授業に出来なかったか」という後悔です。大人のみなにて、一方的な「語りと教え込み」ばかりの授業スタイルはまずかった！ それには時間との関係でテキスト内容を絞り込む必要があったようです。最初の「恋愛」文献を短縮すべきだったか？ 昔の文理科『総合国語』のテーマは必ず「恋愛」でスタートした、その後遺症かもしれません。

今、私は福島市岡部の「もちずり学習センター」で『文学のつどい』という中高年者19名の会員からなる古典講読講座（月2回）を今年の初夏から担当していますが、受講生からは「先生の話は面白いのですが、話の展開が早すぎてついていけない時もあるし、感動に浸っている暇がないのでゆっくりお願いします」と指摘され、反省したばかりだということに、私のせわしい話しぶりや授業展開は、テキストの詩『未来へ』の言葉ではないけれど「昨日の悔いの一つ」として、ちくちくとうずいています。

ところで話変わって、南高創立30周年の8月下旬の文化祭「煌南祭」も見、また10月の「記念式典」にも「学校評議員」（当該学校の運営に関する評価と意見の具申者）の一人として参加しました。今の南高生たちの企画になる文化祭は、何とというか、適切な言葉ではないかもしれませんが、「スタイリッシュ」な印象でした。教室での演劇部の舞台、体育館の演奏、待ち客が列をなすお化け屋敷（その一つに入りました）などに、そんな言葉しか思い浮かばなかったのです。どちらかと言えば無口な、しかし思い秘めている意思のありそうな生徒たちの顔を眺めながら、南高生の「前途有為」を想像したのでした。と同時に、1期生の3年次の私のクラスの「煌南祭」の企画は『不運たけし城』（ビートたけしのTV番組『風雲たけし城』をもじったものだったが、教室が大きすぎて一部未完成だったはず）を思い起こし感慨に浸りもしました。

一方、「記念式典」、秋元同窓会長兼創立記念事業実行委員

長には、挨拶が記念誌・新聞等の文章と壇上でのそれと数多く、これは大変だと大いに同情しました。が、さすが秋元君、見事に大役をこなしていました。昨年度から学校評議員として秋元君の南高入学式や卒業式での雄弁（池田南高現校長も「毎回楽しみにしています」とおっしゃっていました）、しかも年配者の教訓を垂れたがる傾向とは縁遠い挨拶を聞いている私は、28年前の同窓会立ち上げ時に顧問として同窓会会長に彼を指名した時の彼を当然思い起こすのです。当時の若い彼の「性急さがなくて許容力のある人柄と、コンピュータを操る事務処理能力、そして説得性のある発言力」は、私自身の高校生時代と比較しても「大人」のそれでした。だから、私にとって迷うことのない会長指名であり、「この役はお前しかいないんだからな」と言って済ましたものでした。その後、夏の同窓会総会で見た数年前の彼の病でやせた姿に痛々しい思いもしましたが、今回、祝賀会での健康回復報告を交えた挨拶に安堵したのでした。

これは余談ですが、体育館での記念式典の後の「講演会」は写真家・渡部陽一氏の戦場映像を交えたお話でしたが、終りに御礼を述べた男子生徒が、渡部氏の長く引きずるような愉快的語り口を真似て冒頭に挨拶をしたのは傑作ものでした。彼がそのあと続いて何を話すのだったか一時忘れたのも、お茶目だけれど純情そうな彼の人柄が表れていて可笑しく、ああした全体にユーモアを感じて、南高生がますます好きになったものでした。

平成15年頃、南高の教頭だった先生が、別な高校に勤務していた私に「南高の先生方は南高がほんとに好きなんだね」と当時の南高教務主任（彼とは昔は私の席と隣）を例に挙げて語ったことがありました。私もそれは確かだと思っています。6学級前後の学級規模と多様な学科構成、生徒の素質などが関係していると個人的には思っています。実は今でも南高創立時やその数年後一緒になった同志の先生方の呑み会が2つあって、どちらも20

年ほど続いて今年も開催されました。このように南高を良き思い出として抱えている教員や卒業生諸君が、同窓会をはじめ今の健気な南高の生徒たちと熱意ある先生方の活動を、これからも支え続けられたいいな、と心から願っています。

最後に同窓生の皆さん、特別授業テキストにも書いたように、この先まだまだ長い人生ですので、元気に充実した日々をお過ごしください。

授業開始に間に合わないのではと焦っているのに、迷路みたいな建物構造に翻弄され、教室にたどりつけない悪夢を今でもときたま見る、新妻 健より（2017・10・31）